2014年3月23日（日曜日）の下野新聞に
「日本で一番大切にしたい会社」大賞 特別賞が紹介されました。

「大切にしたい会社」で特別賞

那須塩原 パン・アキモト

「パンの缶詰」販売、活用

【那須塩原】パン製造販売のパン・アキモト（東小屋、秋元義彦社長）が、誰もが「大切にしたい」と思う優良企業を全国から発掘して表彰することしの「日本で一番大切にしたい会社」大賞で特別賞を受賞した。社会貢献型の商品として全国的に注目される備蓄用「パンの缶詰」の販売と、それを使った飢餓救済活動が評価された。

同大賞は法政大、日刊工業新聞社、ビジネス関連書籍のあさ出版でつくる実行委員会が主催。ことしが第4回で、前回より3社多い自薦、他薦28社の応募があり、7社が受賞、パン・アキモトは5社選ばれた審査委員会特別賞を受けた。

主な授賞理由として賞味期限3年の備蓄用のパンの缶詰を2年後に更新し、アジア・アフリカの途上国に送って飢餓救済に永続的に役立てる仕組み「救缶鳥プロジェクト」を構築したことが挙げられた。

1月には審査委員長の坂本光司法政大大学院教授ら4人の審査委員の訪問を受け、現地審査が行われた。秋元社長（60）は「『発展途上だが、いいものを持っている』と言われた。社員を巻き込んで行っている東日本大震災被災地への月1回のボランティアも評価された。うれしい半面、社員に対しても社会に対しても責任を感じる」と喜びを語った。

授賞式は20日に東京千代田区の法政大市ケ谷キャンパスで行われた。

同大賞では4回で計31社が受賞。ケーズデンキなど大企業も受賞しているが、今回の受賞企業は7社すべてが中小という。

（飯塚博）